

学校だより 令和5年度 第4号

\*\*\*\*\*

# 協働



\*\*\*\*\*

令和5年7月18日発行 奥多摩町立奥多摩中学校

## 夢と希望を語る夏

校長 原 善哉

3年生の保護者の皆様、急に押し寄せて来た多くの進路情報や卒業後のお子様の進路について、考えることや心配なことが多くなる事と思います。また2年生の保護者の皆様、お子様はいよいよ思春期のまっただ中、疾風怒濤の時代に突入します。大人の胸を借りて、もがきながらも成長しようとしています、ぜひお力を貸してあげてください。そして1年生の保護者の皆様、小学校とは大きく変わった中学校の生活に慣れていくのは、お子様同様、大変だったのではないのでしょうか。皆様、本当に1学期お疲れ様でございました。3者面談の折には、日頃のご心配事など、担任、学年の教員にぜひお話しいただき、共に協力してお子様の成長を支えてまいりましょう。

さて、6月の「ふれあい月間」が終わりました。いじめや差別の根絶を目指すための月間ですので、私たち教員もこの月間で高めた心のアンテナを日常のものとし、これからも取り組んで参ります。いじめや問題が起きたときに適切な対応をすること、いじめは犯罪であり絶対に許さないと抑止していくこと、はとても大切です。しかしそれ以上に、日々いじめが起こりにくく、問題も少なくしていくような「先手の取組」が重要です。そのためにも学校では「教師と生徒」、ご家庭では「ご家族の方とお子様」との間のコミュニケーションをたくさんとり、お互いの信頼関係（ラポール）を深めてまいりましょう。「今日の給食何だった？」とか「今日良かった出来事一つ教えて」など、話題は簡単なもので良いと思います。ぜひ実践をお願いします。

そんな会話を深めていく中で、定期的に話題にしていっていただきたいのがこのワード「将来の夢は何ですか」です。「将来の夢」は、職業の選択や進学を選択を明確にしてくれます。また受験勉強や就職活動のモチベーションになります。何より毎日の生活に張りが出ます。

しかしながら、コロナがあけたとは言え、現在想像する将来は残念ながら予測困難な未来です。夢と言われても困る人もいるでしょう。聞かれて語れる「夢がある」ならば最高ですが、「今はまだない」とはっきり自覚しておくこともまた大事なことです。ぜひ日頃から話題にしていいただき、お子様の考えるきっかけを作っていきたいと思えます。

そして重要なことをもう一つ、それは、夢を大いに語る時期は、この中学時代が実はピークだということです。少々言い過ぎかもしれませんが、東京都では約96%の生徒たちが高等学校へ進学します。そして高等学校は今、生徒たちのあらゆるニーズに応えられるように多様化しています。進学に重点を置いた高校、就職に重点を置いた高校、専門性の習得に重点を置いた高校など多岐にわたります。しかしそれらを達成するために、入学直後から受験のための教科やコースの選択、就職のためにカリキュラムの選択が始まってしまい、それらは提出期限付きで迫られるので、ゆったりと夢を語る時間はほとんどないのです。言ってみれば「高校受験の準備」と共に「将来の夢」もつことは同じくらい大切なことなのです。

お子様にとって、今は正に夢を語るべき中学時代です。私たち大人はその瞬間に立ち会っています。ならば我々大人も大いに自らを語り、寄り添う姿勢とふれあいをもって、お子様達を育てていこうではありませんか。「夢と希望を語る夏」をキャッチフレーズに、ぜひ、ゆったりと夢を語らう夏休みをお過ごしください。

最後になりましたが、39日間の長い夏休みは、中学生達が学校を離れ、家庭・地域の皆様の元で多くの時間を過ごします。ぜひとも、たくさんのお声がけや見守りをしていただき生徒達にとって「地域を愛する心」を育む最高のチャンスとなりますよう、ご支援ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。